

運動部活動指導者の現状と問題点

— 高等学校バスケットボール部 指導者への調査をもとに —

高山 千代

The Present Conditions and Problems Facing Sports Club Advisors
— Based on a Survey of High School Basketball Club Advisors —
by
Chiyo Takayama

緒 言

学校教育の中において子供たちが自発的にスポーツ活動に参加する場として、クラブ活動（必修クラブ）と放課後に活動する部活動が揚げられる。部活動は学校教育の中で特別教育活動として位置づけられており、ほとんどの場合、顧問として学内の教員が指導に携わっている。部活動の顧問は、教科指導・学級指導・生活指導その他多くの校務に加えて、さらに部活動の指導がプラスされているのが現状であり、大きな負担を抱えている場合が多い。現場での部活動の形態は、各々の学校の地域性や施設設備の状況、運営方針等様々な要素の複合的關係によって成立すると考えられるが、とりわけ、指導者と子供たちの関係が活動形態の基本と考えられる。又、運動部活動の指導においては指導者自身のスポーツや部活動の経験が、部活動指導に大きな影響を与えるものと考えられるが、学校の教育現場において、必ずしも、指導者自身がスポーツや部活動の経験を持つとは限らない。そこで、バスケットボール部の顧問への質問紙による調査を実施することにより、指導者の経験の有無と部員との関わり方についての現状と問題点を明らかにし、部活動指導の1資料として提供する事ができれば幸いである。尚、新潟市内の小学校（ミニバスケットボール部）・中学校（バスケットボール部）及び新潟県内の高等学校（バスケットボール部）の顧問に調査を実施した。ここでは第一報として、高等学校の調査結果をまとめた。引き続き、小・中学校については、今後の研究課題としていきたい。

方 法

1、調 査 対 象

新潟県内高等学校バスケットボール部の顧問 回答率81.4%

新潟県内高等学校120校中98校から回答があり、140人から有効回答が得られた。

新潟市内小学校のミニバスケットボール部の顧問 回答率80.0%

新潟市内小学校59校中46校から回答あり、60人から有効回答が得られた。

新潟市内中学校のバスケットボール部の顧問 回答率81.2%

新潟市内中学校32校中26校から回答あり、33人から有効回答が得られた。

2、調査時期

1994年11月～1995年1月

3、調査内容

本研究者の指導経験をもとにし、バスケットボール部指導者との面談内容を参考にして、部活動指導における顧問の現状と問題点についての質問項目の作成を試みた。1994年7月三条市内小学校15校のミニバスケットボール部の顧問に予備調査を実施し、内容を検討し質問紙の作成に至った。個々の質問項目に対する解答は、すべて5件法（5——あてはまる、4——ややあてはまる、3——どちらともいえない、2——あまりあてはまらない、1——あてはまらない）で、もとめた。

結果および考察

1、Q1～Q52の質問項目について指導の現状、指導の技術、指導の環境、部員との関係、部員の状況、指導の言葉の6つの項目群別に因子分析を実施した。バリマックス回転後の主成分分析の結果にしたがって、項目を分類し、以下のように要因名を付けた。

1) 指導の現状の1, 2, 6に積極性, 充実感、3, 5に不適合感、4, 7に負担, 困難感と名付けた。（表1-1）

表1-1 部活動指導の現状の項目の因子分析結果

項 目	因子1	因子2	共通性
Q1 部活動の指導は楽しい	.832	-.232	.746
Q2 希望して顧問になった	.787	-.045	.621
Q6 指導する事に充実感を持っている	.804	-.245	.706
Q3 顧問を辞めたいと思うことがある	-.517	.621	.653
Q5 部の指導に向いていないと思う	-.521	.478	.499
Q4 時間的に負担である	-.213	.736	.587
Q7 部活動の指導に困難さを感じる	-.032	.822	.676
寄 与 率 (%)	49.4	14.7	64.1

2) 指導の技術の、9, 10に知識不足、11, 12, 13, 14, 15に研究熱心と名付けた。尚、8は知識はあるがもっと知りたい場合と、解らないから知りたいのどちらにも解釈されるので除外した。（表1-2）

表1-2 指導の技術的な部分の項目の因子分析結果

項 目	因子1	因子2	共通性
Q8 指導方法をもっと知りたい	.423	.701	.671
Q9 どんな練習をすればよいか解らない	-.251	.837	.764
Q10 審判方法がよく解らない	-.384	.775	.748
Q11 バスケットの本などをよく読む	.736	.158	.566
Q12 指導者講習会によく参加する	.744	-.108	.566
Q13 他の学校の顧問とよく話をする	.758	-.348	.695
Q14 常に練習内容に工夫している	.754	-.252	.632
Q15 試合のビデオを撮影し指導に利用する	.685	-.083	.476
寄 与 率 (%)	42.9	21.1	64.0

3) 指導の環境の16,17に学内の理解、18,19に家庭の理解、20,21,22に保護者の応援と名付けた。尚、19は反転項目として以後取り扱う。(表1-3)

表1-3 指導の環境の項目の因子分析結果

項 目	因子1	因子2	因子3	共通性
Q16 他の先生方は協力的だ	.009	.892	-.099	.806
Q17 校長・教頭は協力的だ	.230	.846	-.038	.769
Q18 家庭の理解がある(ご自身の)	.296	.362	-.650	.640
Q19 家庭で不満をいわれる r	.177	.057	.889	.825
Q20 保護者がよく応援にくる	.915	.013	-.038	.840
Q21 保護者の期待が大きい	.888	.123	.040	.805
Q22 保護者は協力的だ	.796	-.195	-.009	.671
寄 与 率 (%)	39.8	21.9	14.8	76.5

4) 部員との関係の、23,24,25,27,28に部員の信頼感、26,29,30,31に民主性、32,33に配慮性と名付けた。尚、26,28は反転項目として以後取り扱う。(表1-4)

表1-4 あなたと部員との関係の項目の因子分析結果

項 目	因子1	因子2	因子3	共通性
Q23 子供たちは私の言うことを素直に聞く	.749	-.148	.100	.594
Q24 私は子供たちに信頼されている	.829	-.068	.171	.721
Q25 私は子供たちに好かれている	.803	.084	-.006	.652
Q27 私は子供たちによく相談を持ちかけられる	.626	.400	-.121	.567
Q28 私は子供たちの期待に応えていないと思う r	-.558	.247	-.214	.418
Q26 私は子供たちに恐がられている r	.224	-.565	.014	.369
Q29 私は子供たちの意見をよく聞く	.282	.629	.222	.525
Q30 キャプテンは部員で相談して決める	.076	.596	.151	.384
Q31 練習内容について部員の意見を聞く	-.211	.763	-.037	.628
Q32 私は全員が平等に練習できるようにしている	.091	.178	.733	.577
Q33 私は非レギュラーの子供たちに気を配っている	.079	.021	.808	.660
寄 与 率 (%)	26.7	18.2	10.6	55.5

5) 部員の状況の34,35,40,41,43,44はチームの意欲、まとまり、36,37,38,39,42は不真面目さと名付けた。尚、45は勝敗を争う種目の特性に基づくものなので除外した。又、37は反転項目として以後取り扱う。(表1-5)

表1-5 部員の状況の項目の因子分析結果

項 目	因子1	因子2	共通性
Q34 子供たち仲間意識を持っている	.687	-.250	.535
Q35 子供たちは楽しく練習している	.762	.094	.589
Q40 子供たちは競争意識を持っている	.594	-.221	.402
Q41 子供たちは互いに注意を払っている	.705	-.297	.585
Q43 子供たちだけでも普段通り練習できている	.578	-.144	.354
Q44 レギュラー以外の子供たちも意欲的に参加している	.651	-.245	.484
Q36 子供たちはなかなか上達しない	-.146	.677	.480
Q37 子供たちは心身ともに逞しくなってきた r	.495	-.529	.526
Q38 子供たちにはやる気がない	-.341	.631	.515
Q39 子供たちは練習を無断でよく休む	-.165	.760	.605
Q42 子供たちは練習中ふざけていることが多い	-.087	.805	.656
Q45 子供たちは試合に勝ちたいと思っている	.479	-.350	.352
寄 与 率 (%)	39.1	11.6	50.7

6) 指導の言葉の46,52は配慮の言葉、47,48,49,50,51は指導の言葉と名付けた。(表1-6)

表1-6 指導中の言葉がけの項目の因子分析結果

項 目	因子1	因子2	共通性
Q46 ほめる言葉が多い	-.183	.786	.651
Q52 雰囲気盛り上げる言葉が多い	.165	.730	.560
Q47 技術的な指導の言葉が多い	.607	.246	.429
Q48 しかる言葉が多い	.790	-.287	.705
Q49 叱咤激励の言葉が多い	.715	.236	.567
Q50 なじる言葉が多い	.673	-.431	.639
Q51 結果の善し悪しの言葉が多い	.493	-.339	.358
寄与率(%)	35.0	34.1	69.1

2、指導者自身の運動部の経験年数(中学1年~大学4年まで)と、1で得た各要因間との関係を調べた。(分散分析の結果の交互作用の図とFisherのPLSDによる有意水準の表は顕著なものについて、掲載する。以下の3、4についても同様とする。)

A バスケットボール部活動歴について、なし、1~3年、4~6年、7年以上の4グループに分類し、各要因間で分散分析を実施した結果、次のような傾向が認められた。

1) 指導の現状については、経験年数の多い方が積極性、充実感を感じ、不適合感および負担、困難感は少ない。(図2-1, 表2-1)

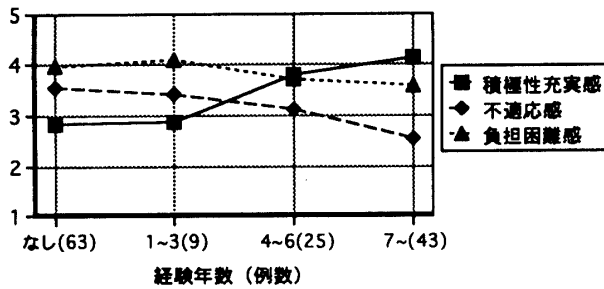


図2-1: バスケット経験と指導の現状

表2-1 バスケット経験年数間の有意差

	FisherのPLSD		
	積極性充実感	不適合感	負担困難感
なし, 1~3	.8941	.7990	.7064
なし, 4~6	<.0001***	.0924	.2386
なし, 7以上	<.0001***	<.0001***	.0441*
1~3, 4~6	.0207*	.4270	.2884
1~3, 7以上	.0009***	.0164*	.1456
4~6, 7以上	.1800	.0225*	.6279

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

2) 指導の技術については、経験年数の少ない方が知識不足を感じている。又、経験年数の多い方が研究熱心である。(図2-2, 表2-2)

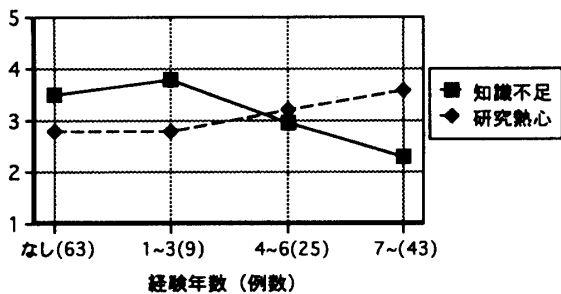


図2-2: バスケット経験と指導の技術

表2-2 バスケット経験年数間の有意差

	FisherのPLSD	
	知識不足	研究熱心
なし, 1~3	.5149	.9648
なし, 4~6	.0476*	.0906
なし, 7以上	<.0001***	.0001***
1~3, 4~6	.0719	.2834
1~3, 7以上	.0006***	.0315*
4~6, 7以上	.0210*	.1350

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

3) 指導の環境については、経験年数の多い方が学内、家庭、保護者からの理解応援を受けていると感じている。(図2-3, 表2-3)

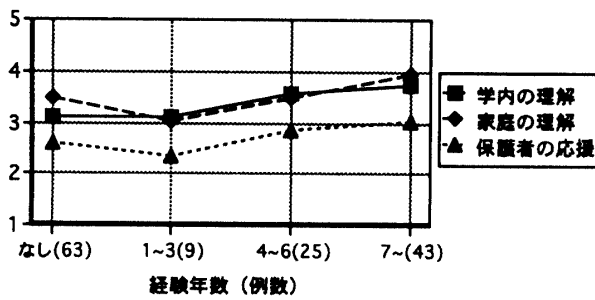


図 2-3 : バスケット経験と指導の環境

4) 部員との関係については経験年数の多い方が信頼感が高く、経験年数の少ない方が、民主性が高く、配慮性はどのグループも高い。(図 2-4, 表 2-4)

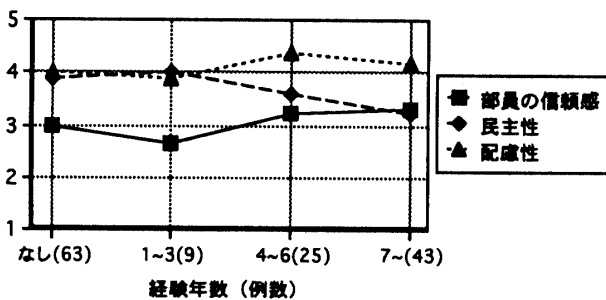


図 2-4 : バスケット経験と部員との関係

5) 部員の状況については、チームの意欲,まとまりでは有意な差は見られないが、経験年数の少ない方が不真面目だと感じている。(図 2-5, 表 2-5)

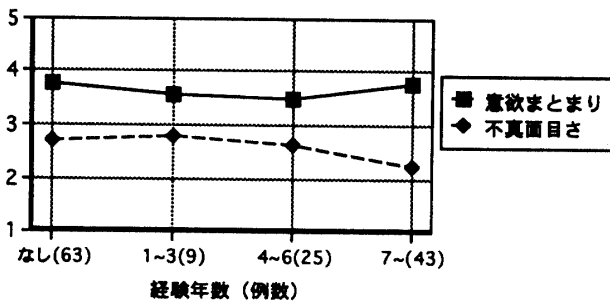


図 2-5 : バスケット経験と部員の状況

6) 指導の言葉については、配慮の言葉では有意な差は見られないが、経験年数の少ない方が指導の言葉が少ない。(図 2-6, 表 2-6)

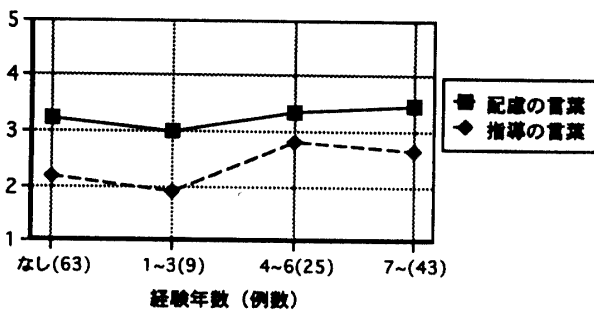


図 2-6 : バスケット経験と指導の言葉

表 2-3 バスケット経験年数間の有意差

FisherのPLSD 有意水準: 5%

	学内の理解	家庭の理解	保護者の応援
なし, 1~3	.	.2082	.4742
なし, 4~6	.0765	.9879	.3440
なし, 7~	.0044*	.0240*	.0461*
1~3, 4~6	.2796	.2446	.2189
1~3, 7~	.1202	.0151*	.0767
4~6, 7~	.5485	.0770	.4910

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

表 2-4 バスケット経験年数間の有意差

FisherのPLSD 有意水準: 5%

	信頼感	民主性	配慮性
なし, 1~3	.2261	.6253	.5977
なし, 4~6	.1418	.1150	.0172*
なし, 7~	.0199*	<.0001***	.2722
1~3, 4~6	.0461*	.1599	.0530
1~3, 7~	.0154*	.0036**	.2694
4~6, 7~	.6430	.0347*	.1638

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

表 2-5 バスケット経験年数間の有意差

FisherのPLSD 有意水準: 5%

	意欲まとまり	不真面目さ
なし, 1~3	.4325	.8318
なし, 4~6	.1072	.7079
なし, 7~	.9697	.0028**
1~3, 4~6	.7920	.6727
1~3, 7~	.4333	.0661
4~6, 7~	.1225	.0427*

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

表 2-6 バスケット経験年数間の有意差

FisherのPLSD 有意水準: 5%

	配慮の言葉	指導の言葉
なし, 1~3	.4262	.2456
なし, 4~6	.6162	<.0001***
なし, 7~	.1867	.0004***
1~3, 4~6	.3015	.0004***
1~3, 7~	.1380	.0023**
4~6, 7~	.5685	.2939

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

B 運動部活動歴（バスケットボールと他の種目の経験年数の和）について、なし、1～3年、4～6年、7年以上の4グループに分類し、各要因間で分散分析を実施した結果、次のような傾向が認められた。

1) 指導の現状については、経験年数の多い方が積極性、充実感を感じている。7年以上のグループに比べ他は不適合感を少し感じる。負担、困難感の差は少ない。（図2-7、表2-7）

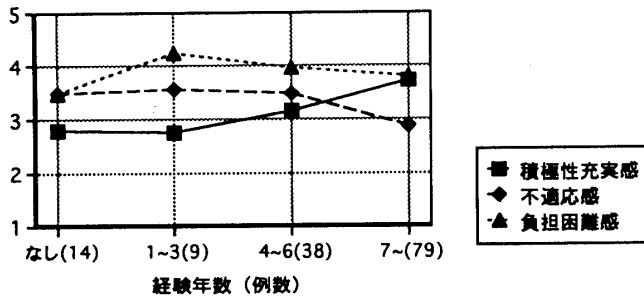


図2-7：運動部経験と指導の現状

表2-7 運動部経験年数間の有意差

FisherのPLSD 有意水準：5%

	積極性充実感	不適合感	負担困難感
なし, 1~3	.9866	.9059	.0769
なし, 4~6	.2844	.9390	.1336
なし, 7~	.0042**	.0511	.3021
1~3, 4~6	.3562	.8409	.4356
1~3, 7~	.0168*	.0796	.1920
4~6, 7~	.0110*	.0064**	.3867

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

2) 指導の技術については、経験年数の少ない方が知識不足を感じている。又、経験年数の多い方が研究熱心である。（図2-8、表2-8）

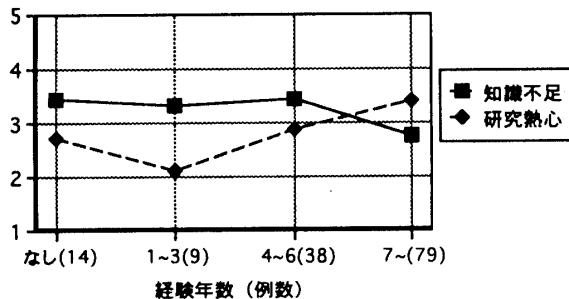


図2-8：運動部経験と指導の技術

表2-8 運動部経験年数間の有意差

FisherのPLSD 有意水準：5%

	知識不足	研究熱心
なし, 1~3	.8588	.1605
なし, 4~6	.9847	.5650
なし, 7~	.0724	.0209*
1~3, 4~6	.8502	.0365*
1~3, 7~	.2042	.0004***
4~6, 7~	.0095**	.0129*

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

3) 指導の環境については、学内、保護者では有意な差は見られない。経験年数の多い方が家庭の理解があると感じている。

4) 部員との関係については、信頼感と民主性では有意な差は見られない。配慮性はどのグループも高い。

5) 部員の状況については、チームの意欲、まとまりでは有意な差は見られないが、経験年数の多い方が不真面目さは低いと感じている。

6) 指導の言葉については、配慮、指導の言葉では有意な差は見られない。

このように、指導者自身の部活動の経験は、部活動の指導場面に影響を及ぼしており、特にバスケットボールの活動歴において、その傾向はより顕著である。経験年数が多い方が、より積極的で充実感を持って指導しており、部員との関係においても、信頼感が高く、子供たちは意欲的に練習に取り組んでいる。民主性については、逆の傾向が現れているが、これは、指導技術の知識の高い場合は練習内容や方法を指導者が計画することが多く、子供たちは信頼してその指導を受けていると考えられる。部員の状況における不真面目さとやや対応していることから、民主性が放任性を招くとも考えられる。

3、運動部顧問としての指導経験年数と、1で得た各要因間との関係を調べた。

A バスケットボール部指導歴について、0～2年、3～9年、10～19年、20年以上の4グループに分類し、各要因間で分散分析を実施した結果、次のような傾向が認められた。

1) 指導の現状については、指導年数の多い方が積極性,充実感を感じ、不適合感および負担,困難感は少ない。(図3-1, 表3-1)

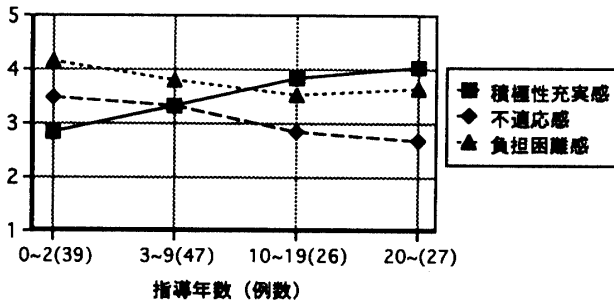


図3-1: バスケット指導歴と指導の現状

表3-1 バスケット指導歴間の有意差

FisherのPLSD 有意水準: 5%

	積極性充実感	不適合感	負担困難感
0~2, 3~9	.0265*	.5510	.0689
0~2, 10~19	.0002***	.0288*	.0076**
0~2, 20~	<.0001***	.0045**	.0201*
3~9, 10~19	.0553	.0807	.2389
3~9, 20~	.0079**	.0153*	.4291
10~19, 20~	.5174	.5535	.7230

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

2) 指導の技術については、指導年数の少ない方が知識不足を感じている。又、指導年数の多い方が研究熱心である。(図3-2, 表3-2)

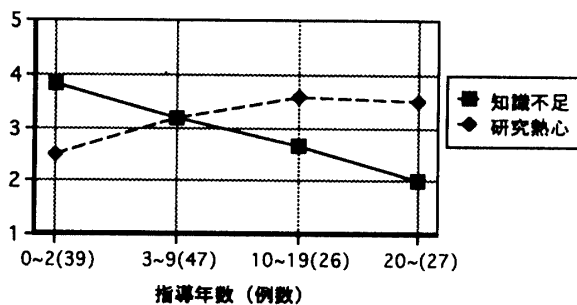


図3-2: バスケット指導歴と指導の技術

表3-2 バスケット指導歴間の有意差

FisherのPLSD 有意水準: 5%

	知識不足	研究熱心
0~2, 3~9	.0096**	.0014**
0~2, 10~19	<.0001***	<.0001***
0~2, 20~	<.0001***	<.0001***
3~9, 10~19	.0486*	.0866
3~9, 20~	<.0001***	.1369
10~19, 20~	.0331*	.8258

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

3) 指導の環境については、学内, 家庭の理解では有意な差は見られないが、指導年数の多い方が保護者の応援を受けていると感じている。(図3-3, 表3-3)

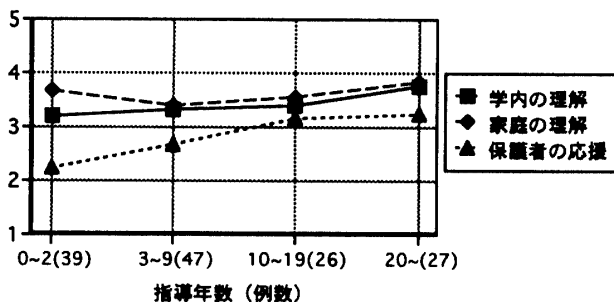


図3-3: バスケット指導歴と指導の環境

表3-3 バスケット指導歴間の有意差

FisherのPLSD 有意水準: 5%

	学内の理解	家庭の理解	保護者の応援
0~2, 3~9	.6294	.2275	.0532
0~2, 10~19	.5159	.7433	.0006***
0~2, 20~	.0514	.4947	.0001***
3~9, 10~19	.8060	.4639	.0561
3~9, 20~	.1110	.0745	.0185*
10~19, 20~	.2358	.3560	.7031

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

4) 部員との関係については指導年数の多い方が信頼感が高く、指導年数の少ない方が、民主性が高く、配慮性はどのグループも高い。(図3-4, 表3-4)

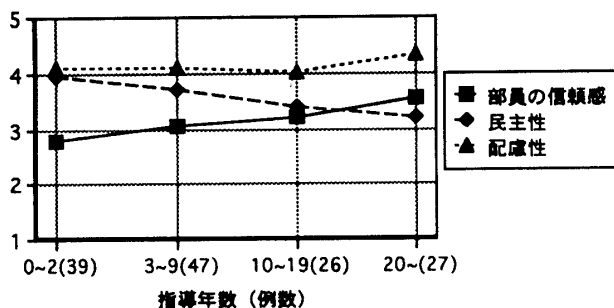


図 3-4 : バスケット指導歴と部員との関係

5) 部員の状況については、チームの意欲,まともりでは有意な差は見られないが、指導年数の多い方が不真面目さはやや低い。(図 3-5, 表 3-5)

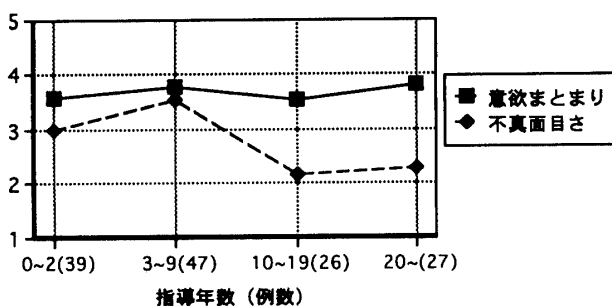


図 3-5 : バスケット指導歴と部員の状況

6) 指導の言葉については、配慮の言葉では有意な差は見られないが、指導年数の少ない方が指導の言葉が少ない。(図 3-6, 表 3-6)

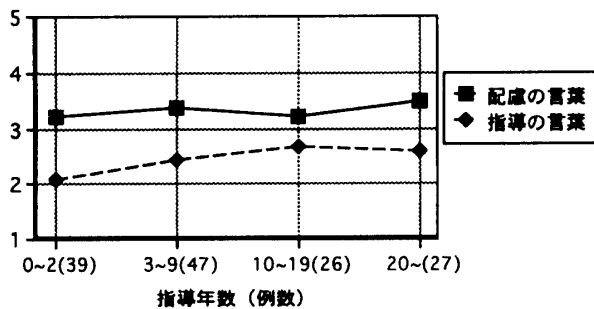


図 3-6 : バスケット指導歴と指導の言葉

表 3-4 バスケット指導歴間の有意差

	FisherのPLSD		
	信頼感	民主性	配慮性
0~ 2, 3~ 9	.0835	.1284	.9788
0~ 2,10~19	.0169*	.0060**	.7024
0~ 2,20~	<.0001***	.0002***	.1656
3~ 9,10~19	.3392	.1273	.6749
3~ 9,20~	.0049**	.0085**	.1575
10~19,20~	.0992	.3276	.1069

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

表 3-5 バスケット指導歴間の有意差

	FisherのPLSD	
	意欲まともり	不真面目さ
0~ 2, 3~ 9	.2135	.0118
0~ 2,10~19	.7817	<.0001***
0~ 2,20~	.2200	.0004***
3~ 9,10~19	.1652	.0452*
3~ 9,20~	.8758	.1344
10~19,20~	.1703	.6358

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

表 3-6 バスケット指導歴間の有意差

	FisherのPLSD	
	配慮の言葉	指導の言葉
0~ 2, 3~ 9	.3621	.0196*
0~ 2,10~19	.9104	.0011**
0~ 2,20~	.2210	.0030**
3~ 9,10~19	.4891	.1726
3~ 9,20~	.6503	.3117
10~19,20~	.3113	.7440

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

B 運動部指導歴 (バスケットボールと他の種目の指導年数の和) について、0~2年、3~9年、10~19年、20年以上の4グループに分類し、各要因間で分散分析を実施した結果、次のような傾向が認められた。

- 1) 指導の現状については、指導年数の多い方が積極性,充実感を感じ、不適合感および負担,困難感は少ないが有意な差は見られない。
- 2) 指導の技術については、指導年数の少ない方が知識不足を感じている。又、指導年数の多い方が研究熱心である。(図 3-7, 表 3-7)

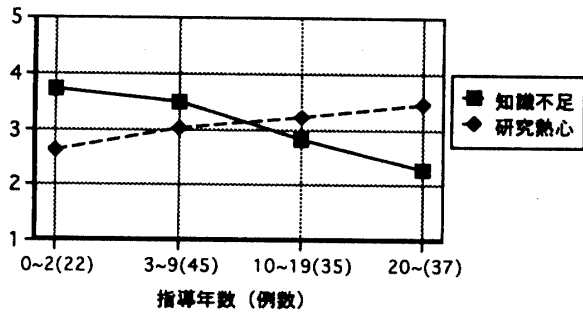


図3-7：運動部指導歴と指導の技術

3) 指導の環境については、学内の理解では有意な差は見られない。家庭の理解では10~19年のグループがやや低く、指導年数の多い方が保護者の応援を受けていると感じている。

4) 部員との関係については指導年数の多い方が信頼感が高く、指導年数の少ない方が民主性が高く、配慮性はどのグループも高い。(図3-8, 表3-8)

表3-7 運動部指導歴間の有意差

	FisherのPLSD	
	知識不足	研究熱心
0~2, 3~9	.4287	.1488
0~2, 10~19	.0049**	.0445*
0~2, 20~	<.0001***	.0033**
3~9, 10~19	.0123*	.4413
3~9, 20~	<.0001***	.0559
10~19, 20~	.0422*	.2833

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

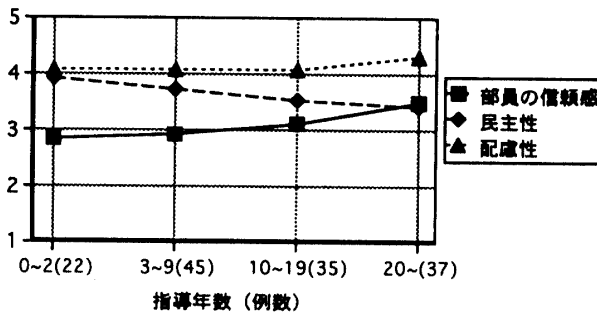


図3-8：運動部指導歴と部員との関係

5) 部員の状況については、チームの意欲,まともでは有意な差は見られないが、指導年数の多い方がやや真面目だと感じている。

6) 指導の言葉については、配慮、指導の言葉では有意な差は見られない。

C 他の種目の指導歴について、0~2年、3~9年、10~19年、20年以上の4グループに分類し、各要因間で分散分析を実施した結果、次のような傾向が認められた。

1) 指導の現状については、他の指導年数の多い方が積極性,充実感を感じられない。又、不適合感を感じている。負担,困難感には有意な差は見られない。(図3-9, 表3-9)

表3-8 運動部指導歴間の有意差

	FisherのPLSD		
	信頼感	民主性	配慮性
0~2, 3~9	.7108	.3824	.8882
0~2, 10~19	.2035	.0831	.9770
0~2, 20~	.0017**	.0165*	.2486
3~9, 10~19	.2674	.2749	.8985
3~9, 20~	.0007***	.0574	.1186
10~19, 20~	.0303*	.4508	.1773

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

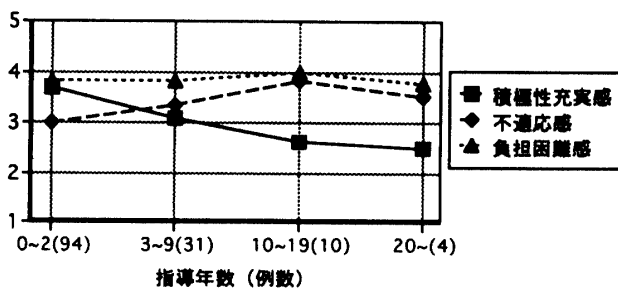


図3-9：他種目指導歴の指導の現状

表3-9 他種目の指導歴間の有意差

	FisherのPLSD		
	積極性充実感	不適合感	負担困難感
0~2, 3~9	.0153*	.1168	.9494
0~2, 10~19	.0046**	.0310*	.5738
0~2, 20~	.0420*	.3275	.8885
3~9, 10~19	.2191	.2754	.5819
3~9, 20~	.3117	.8073	.9124
10~19, 20~	.8788	.6508	.6619

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

2) 指導の技術については、他の指導年数の多い方が知識不足を感じている。又、研究熱心さは10~19年のグループがやや低い。

3) 指導の環境、4) 部員との関係、5) 部員の状況については、大きな傾向は見られない。

6) 指導の言葉については、配慮の言葉は有意な差は見られないが、他の指導年数の多い方が指導の言葉ではやや低い。

このように、運動部の指導歴についても、経験年数の長い方が、意欲的な取り組み（積極性、充実感、研究熱心さ）がみられ、子供たちも意欲的に取り組んでいる（信頼感、不真面目）。この傾向はバスケットボールの指導歴において、より顕著である。又、他の種目の指導歴が長い場合は、同時にバスケットボールの指導歴が短くなることから、積極性、充実感が低く、不適合感を感じている傾向がある。

4、指導の技術的な部分についての指導者のタイプと、1で得た各要因間との関係を調べた。

Q 9とQ10の平均が3以下を「解らない」他を「解る」、Q11~Q15の平均が3以下を「研究不熱心」他を「研究熱心」とし、「解る-研究熱心」「解らない-研究熱心」「解る-研究不熱心」「解らない-研究不熱心」の4つのタイプに分類し、各要因間で分散分析を実施した結果、次のような傾向が認められた。（尚、図表には、解る=理解、解らない=非解、研究熱心=熱心、研究不熱心=不熱と表示した。）

1) 指導の現状については、「解る-研究熱心」タイプは特に積極性、充実感を感じ、不適合感および負担、困難感他は他のタイプよりも少ない。「解る-研究不熱心」タイプと、「解らない-研究熱心」タイプは、積極性、充実感を感じているが、不適合感および負担、困難感がある。「解らない-研究不熱心」は、積極性、充実感が少なく、不適合感および負担、困難感を感じている。（図4-1、表4-1）

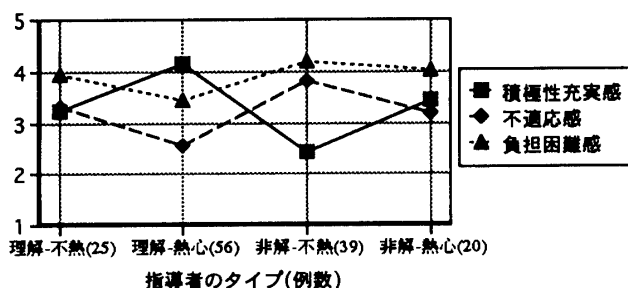


図4-1：指導者のタイプと指導の現状

表4-1 指導者の4つのタイプ間の有意差

	FisherのPLSD		
	積極性充実感	不適合感	負担困難感
理解-不熱, 理解-熱心	<.0001***	.0026**	.0198*
理解-不熱, 非解-不熱	.0009***	.0563	.3457
理解-不熱, 非解-熱心	.4511	.6941	.7409
理解-熱心, 非解-不熱	<.0001***	<.0001***	.0002***
理解-熱心, 非解-熱心	.0038**	.0188*	.0116*
非解-不熱, 非解-熱心	<.0001***	.0279*	.6039

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

3) 指導の環境については、「解る-研究熱心」タイプは、学内、家庭、保護者からの理解応援があると感じている。「解らない-研究熱心」タイプは家庭の理解があると感じている。「解らない-研究不熱心」タイプは、いずれも低い。（図4-2、表4-2）

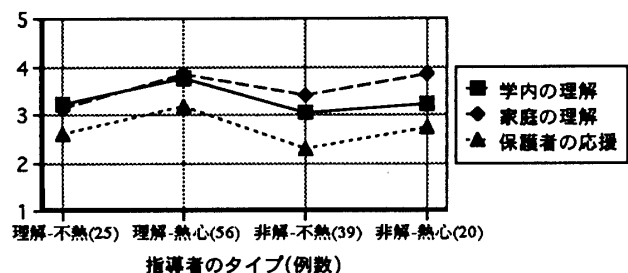


図4-2：指導者のタイプと指導の環境

表4-2 指導者の4つのタイプ間の有意差

	FisherのPLSD		
	学内の理解	家庭の理解	保護者の応援
理解-不熱, 理解-熱心	.0321*	.0040**	.0227*
理解-不熱, 非解-不熱	.5834	.3260	.2221
理解-不熱, 非解-熱心	.	.0217*	.6219
理解-熱心, 非解-不熱	.0019**	.0323*	<.0001***
理解-熱心, 非解-熱心	.0475*	.9792	.1215
非解-不熱, 非解-熱心	.6094	.1086	.0949

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

4) 部員との関係については、「解る-研究熱心」タイプは、他より信頼感が高く、「解らない-研究不熱心」タイプは信頼感は低い。「解る-研究不熱心」タイプと、「解らない-研究熱心」タイプでは、有意差はない。民主性は「解らない-研究熱心」タイプと「解らない-研究不熱心」タイプが高い。配慮性はどのグループも高く、有意な差は見られない。(図4-3, 表4-3)

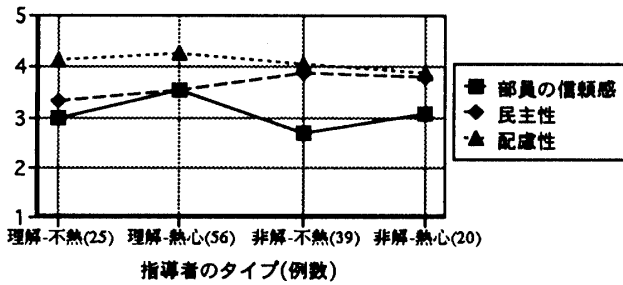


図4-3: 指導者のタイプと部員との関係

表4-3 指導者の4つのタイプ間の有意差

	FisherのPLSD		
	信頼感	民主性	配慮性
理解-不熱, 理解-熱心	.0007***	.2412	.4279
理解-不熱, 非解-不熱	.0885	.0054**	.6938
理解-不熱, 非解-熱心	.6537	.0376*	.2826
理解-熱心, 非解-不熱	<.0001***	.0362*	.1633
理解-熱心, 非解-熱心	.0080**	.1852	.1501
非解-不熱, 非解-熱心	.0386*	.7324	.4198

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

5) 部員の状況については、チームの意欲, まとまりでは有意な差は見られないが、「解る-研究熱心」タイプは不真面目と感じていない。(図4-4, 表4-4)

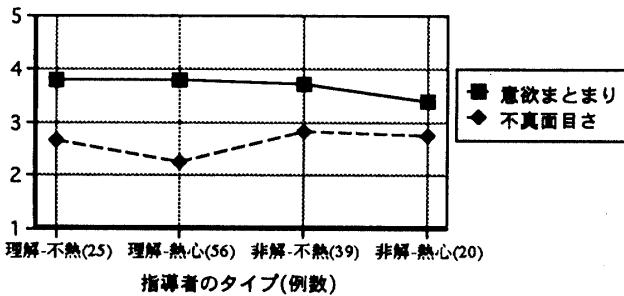


図4-4: 指導者のタイプと部員の状況

表4-4 指導者の4つのタイプ間の有意差

	FisherのPLSD	
	意欲まとも	不真面目さ
理解-不熱, 理解-熱心	.8556	.0529
理解-不熱, 非解-不熱	.5673	.3976
理解-不熱, 非解-熱心	.0711	.6595
理解-熱心, 非解-不熱	.6220	.0013**
理解-熱心, 非解-熱心	.0562	.0223*
非解-不熱, 非解-熱心	.1494	.7580

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

6) 指導の言葉については、配慮の言葉は、「解る-研究熱心」タイプが他のどのタイプより高い。指導の言葉は、解らない-研究不熱心が他のどのタイプより低い。(図4-5, 表4-5)

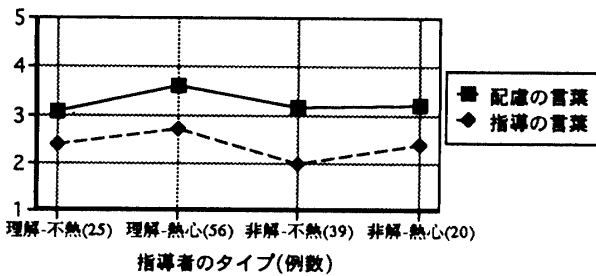


図4-5: 指導者のタイプと指導の言葉

表4-5 指導者の4つのタイプ間の有意差

	FisherのPLSD	
	配慮の言葉	指導の言葉
理解-不熱, 理解-熱心	.0170*	.0604
理解-不熱, 非解-不熱	.6582	.0118*
理解-不熱, 非解-熱心	.6486	.
理解-熱心, 非解-不熱	.0265*	<.0001***
理解-熱心, 非解-熱心	.0903	.0827
非解-不熱, 非解-熱心	.9323	.0188*

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

タイプ別の指導者においては、「解る-研究熱心」タイプが、他のタイプより、意欲的に取り組み、子供たちも意欲的に真面目に取り組む、周りからの理解を得ている。「解る」の中に

バスケットボール部の経験および指導歴の長い者が含まれていると考えられるが、「解らない」つまり、バスケットボール部の経験および指導歴が少ない場合でも「研究熱心」であれば、「解る－研究不熱心」タイプと同じ位の部活動の指導状況にあると考えられる。

ま と め

スポーツに対する態度は、運動経験の快・不快に影響されるところが大きく^{1) 2)}、指導者の過去の運動経験が、現在のスポーツに対する態度に影響し、現在の子供たちが、運動に関わっている状況が将来のスポーツに対する態度に大きく影響すると考えられる。小学校婦人教師の調査では、体育指導に役立った事柄として学校時代の運動部で得た技能、知識、態度が一番目にあげられている。又、運動に愛好的な人は、そうでない人よりも、体育指導に対して、積極的な取り組みと、研究熱心さを示している³⁾。このことは、本研究における、指導者自身の運動部の経験と、部活動指導に対する意欲的な取り組み方と一致するものである。高等学校の運動部顧問の多くが、顧問スポーツの経験を学校時代に運動部で経験しているが、部活動指導に自信を持っているものは消極的なものを含めて42%に過ぎず、指導能力を向上させる研修が必要と感じているが、実際に研修しているものは、消極的なものを含めて67%という報告もある⁴⁾。本研究においても、指導技術、知識不足を感じている指導者が多い反面、研究熱心さが足りないものが多いという傾向が現れている。これに関連して、子供たちの指導者に期待する資質の面では、専門的知識が高く評価されている⁵⁾が、本研究では、指導の技術面における理解と研究熱心さにより分類した4つのタイプ別指導者についての結果から、専門的な技術・知識があり研究熱心な場合は、最も指導者としての資質が高いといえるが、専門的な技術・知識がなくても研究熱心な場合は、専門的な技術・知識があるが研究不熱心な指導者に劣らないということがいえる。先に述べたように、学校における部活動の指導者は、経験者ではない場合も多く、不適合感や負担感を持ち子供たちとの信頼関係の不足を感じている場合が多く、又、負担感については、全員の平均値が、3.83/5というポイントで示されるように、経験や専門性に関わらず学校教育現場における部活動指導は、顧問教師に対して負担を強いているのが現状である。部活動は教育課程外の活動ではあるが、教育効果も高く学校の教育活動の一つとして積極的に振興した方がよいとする顧問教師たちの教育理念⁶⁾をよりどころに成立しているが、顧問教師に対する理解、研修の場や時間の提供がさらに望まれる。

付記、本研究は、高等学校のバスケットボール部顧問についての調査結果であり、体育の教師が140人中62人(44.3%)、バスケットボール部活動経験者は77人(55%)と、専門性の高い場合が多いが、小・中学校においては、又、少し異なる現状を呈するものと考えられ、学校間の比較検討を行っていきたい。又、運動部の目標、競技レベルに着眼した分析研究の必要性を感じ、今後の研究課題としたい。

尚、新潟大学助教授 森 恭 先生には、多大なるご指導をいただきました。ここに感謝の意を表します。

＜引用・参考文献＞

- 1) 桑野 豊、他「現代社会とスポーツ」不昧堂、pp137-139, 1984.
- 2) 体育社会学研究会編「体育とスポーツ集団の社会学」道和書院、pp135-158, 1974.
- 3) 体育社会学研究会編「体育・スポーツ指導者の現状と課題」道和書院、p38, 1974.
- 4) 体育・スポーツ社会学研究会編「体育・スポーツ社会学研究2」道和書院、pp99-102, 1983.
- 5) 桑野 豊、他「現代社会とスポーツ」不昧堂、p155
- 6) 体育・スポーツ社会学研究会編「体育・スポーツ社会学研究2」道和書院、p122, 1983.
- 7) 佐伯聰夫、他「現代社会スポーツの社会学」不昧堂、1984.
- 8) 体育・スポーツ社会学研究会編「子供のスポーツを考える」道和書院、1987.
- 9) 城丸 章夫、水内 宏編「スポーツ部活はいま」青木書店、1991.